

18 鮫川河口 (いわき市)



環 境

鮫川は、いわき市の南部を流れて太平洋に注ぐ河川である。河口の左岸には常磐共同火力発電所があり、高いコンクリートの防潮堤に囲まれ、その外側には広い潟湖がある。潟湖の北のはずれから海岸段丘が海に落ち込み、高い海食崖を作っている。河口の右岸は自然がそのまま残っており、ヨシ原と干潟が続き、南へ防風林とその背後の狭い潟湖が蛭田川河口へと続く。

広い河口域と河口の北側の潟湖には水鳥たちが、河口部のヨシ原には小鳥たちがそれぞれ生息している。

季 節

河口左岸に広がる潟湖は護岸堤からでもよいが、対岸の砂州からのほうが観察には都合がよい。砂州には潟湖の北端からも河口の導流堤からも入れる。河口部と潟湖には、冬ならば沢山のウミネコをはじめとするカモメ類が水浴びをしており、スズガモを

主体とするカモ類が見られ、ハヤブサが上昇気流に乗って飛んでいることが多い。海岸の砂浜にはシロチドリが見られ、夏にはコアジサシが集団で繁殖している。春と秋の渡りの季節にはシギやチドリ類、アジサシなどが多数渡来する。

右岸のヨシ原は、夏にはオオヨシキリ、セッカの楽園であり、秋には旅立ち前のツバメが集まり壮観を極める。潟湖にはカワセミがよく見られ、クサシギやツルシギも姿を見せる。防風林の中にはメジロなどの留鳥の他に、冬にはエナガやカラ類の混群が見られる。

南の蛭田川とその周辺の水田と潟湖には、カルガモの群れがいつも見られるほか、時には冬、この地方には珍しいタゲリやタシギが姿を見せることもある。

交 通

JR常磐線植田駅より左岸まで徒歩約40分、右岸まで同じく60分。バスの便は悪く、タクシー利用が便利。